

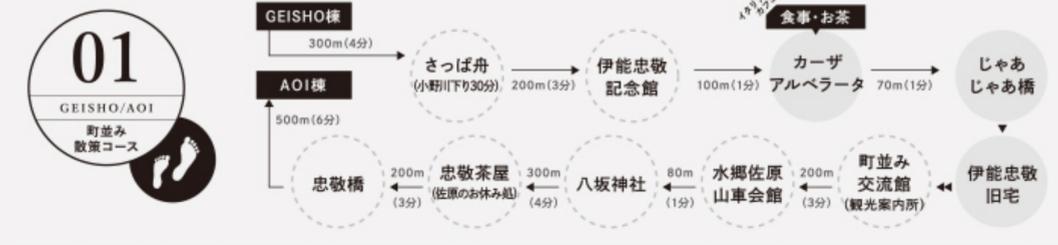
|||| NIPPONIA

佐原商家町ホテル

600年の水郷の街へ溶け込むように泊まる



商家町散策ルート



ふらり寄り道セレクト

<p>カーザアルペラータ 香取市佐原イ1727 [TEL]0478-79-9422 月曜定休日 中村屋商店の隣屋敷として使われた家屋をリノベーションしたイタリアンレストラン。地元野菜やお肉、魚子漁産物の鮮魚などに加え、シェフが全国各地より厳選した食材を使った本格イタリアンが楽しめます。</p>	<p>ワーズワース 香取市佐原イ491-1 [TEL]0478-50-0202 水曜定休日 材木店だった建物を生かし、2012年にオープンしたスイングウッドのお店。成田空港から足を延ばす外国人観光客にも人気。人気メニューは「数根玉子焼きナポリタン」。飲み時は山見屋のベストスポットに。</p>	<p>River Way 正上 香取市佐原イ3406 [TEL]0478-54-1642 現在住居屋を営む創業寛政12年の歴史あるお醬油屋さんで、天保3年の江戸商家造りそのままだ。歴史を感じる空間の中でとんぼ玉づくり体験を行うことができます。なとんぼ玉製作体験は15時まで。</p>	<p>いなえ 香取市佐原イ511 [TEL]0478-54-7575 水曜定休日 明治に建てられた町家2棟、土蔵、洋館、蔵が中庭でつながる「いなえ」は、佐原の歴史や文化、緑や自然を感じる空間で、甘味喫茶、ギャラリー、お土産、工芸品、雑貨など、生活に結びついたコト、モノに出会えます。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

各宿泊先から徒歩でアクセスできる、定番から話題のお店まで。歩く速度だからこそこそ発見できる「出会い」がここにはあります。

商家町を歩こう

CREDIT

企画・発行 | 佐原商家町ホテル NIPPONIA / 編集・デザイン | 一般社団法人ノオト D&Eaggregate株式会社 / 印刷 | 株式会社シーズクリエイト / 写真提供 | 香取市
お問合せ先 | 株式会社NIPPONIASAWARA 〒287-0003 千葉県香取市佐原イ525番地1 [TEL]0478-79-9385

水郷の商家町全体をホテルに 新しく懐かしい、旅の愉しみ方がはじまる



佐原商家町ホテル NIPPONIA [ホテル全体マップ]



商家町に点在する、3棟でひとつのホテル

「北総の小江戸」と称される人気観光地、千葉県香取市佐原(さわら)。600年の歴史を重ねる水郷の町でもあり、小野川沿いを中心とした地区は、江戸の雰囲気を残す土蔵造りの商家や町屋が軒を連ねる風情あふれる土地です。佐原商家町ホテル NIPPONIA(ニッポニア)は、この情緒あふれる佐原の中心部に3つの宿泊棟が点在する、商家町全体をひとつのホテルと見立てた宿泊施設です。

建築当時の趣きを感じる客室、地域の豊かな食材をふんだんに取り入れた本格フレンチ、既存の歴史施設、飲食店・店舗等と連携した歴史的商家の町歩きなど、佐原の「600年の水郷の街へ溶け込むように泊まる」新しいスタイルの宿泊体験を提供しています。

葛翁が生み出した数々の花菖蒲 アヤメの名前を冠した3棟の客室。

宿泊棟は、安政2年(1855年)に建てられたものから明治時代のあまで、歴史的に価値の高い建物を中心に、それぞれの棟が持つ歴史やその営みを感じることが出来ます。3棟ある宿泊棟の名前は、GEISHO(ケイシヨ)、AOI(アオイ)、「YATA(ヤタ)」、「葛翁」松平定朝が江戸時代に生み出した数々の花菖蒲の名がつけられました。

市花としてのアヤメは、佐原が位置する利根川を中心に豊かな水辺に恵まれている香取市を示す花として、広く市民からも親しまれています。また、160万本のアヤメ類が植栽される水郷佐原水生植物園は、全国から多くの観光客が訪れる観光名所です。地域のシンボルでもあり、市民から愛される花、アヤメの名を冠した宿泊棟が同様に地域に根付き、愛されることを願っています。

佐原商家町ホテル NIPPONIAは、こうした土地や建物の歴史性を尊重しながら、佐原の文化や歴史、地域で暮らすことの豊かさを実感できる宿泊施設としてオープンしました。

歴史的資源を活用した 地域活性化の取り組みとして

佐原商家町ホテル NIPPONIAの取組みは平成6年2月に締結された「千葉県香取市の歴史的資源を活用した地域活性化に向けた連携協定」の一環として実施されています。

本協定は、香取市と株式会社京葉銀行、佐原信用金庫、一般社団法人ノオト、パルティーマネジメント株式会社及び株式会社地域経済活性化支援機構の6者による香取市の観光活性化の推進に向けたまちづくりを行うことを目的に締結されました。これは、政府推進の明日の日本を支える観光ビジョン構想会議や「歴史的資源を活用した観光まちづくりタスクフォース」における、「地域の観光資源の磨き上げ」や「観光革新」による「地域の歴史的建造物・古民家の理解促進・活用・保存」と「観光産業の国際競争力強化・雇用の創出」の具体的推進施策として注目されています。

本件ではすでに組成されている「千葉・江戸優り佐原観光活性化ファンド」を活用し、不動産の保有や管理を行う株式会社NIPPONIA SAWARA不動産、及びDVCや集客を担う株式会社NIPPONIA SAWARAへ投資が行われホテル全体のリノベーションが実施されました。これまで、資産価値担保価値がなるとされ、改修資金の調達が困難だった古民家が、その再生における新しい投資先の仕組みとともに、歴史的資源として活用される施策が進んでいます。

古民家には長い時間をかけて積み重ねてきた日本独自の暮らしや文化、歴史的な空間の力強さ、そして地域ごとの特色が詰まっています。これは今後の観光産業を支える大きな財産です。古くならたから手放すのではなく、地域に今暮らす人々にしつて、より良いかたちで再生していきます。

佐原商家町ホテル NIPPONIAは、こうした地域の人がこれまで築き上げてきた歴史や文化、暮らしを大切に受け継ぎ、新たな日本の宝を創造する取組みのスタートとして運営されています。

About / 江戸優りと言われる町並み

～守り、受け継がれる歴史的景観～



江戸の文化を色濃く残す、 北総の小江戸、佐原。

佐原の町並みは、香取市佐原の市街地にある歴史的な建造物が残る町並みであり、商家町の歴史的景観を残すものとして、重要伝統的建造物群保存地区として選定されています。

もともと佐原は、江戸時代行われた利根川東遷事業により舟運が盛んになり、小野川沿いなどが物資の集散地として栄えた背景があります。しかし、実はその歴史は深く、小野川沿いの商業都市としての町並みは、遅くとも南北朝時代に作られたとされます。利根川東遷事業完了により、小野川と利根川が繋がると、東北地方などから物資が利根川を経由し江戸へ至るルートが確立されたため、佐原はその舟運の拠点となり、定期市(六斎市)が開かれ大いに賑わいを見せました。

醤油や酒の醸造業も盛んとなり、江戸中期には35軒もの造酒屋が存在、関東灘とも呼ばれるようになり、江戸後期、明治期にかけて佐原は最も栄え、旦那衆と呼ばれる豪商たちにより、多くの職人衆が江戸から佐原に呼び寄せられたこともあり、職人の技と旦那衆の粋とが融合し、佐原は江戸に優るとも劣らない「江戸優り」の文化が開花したのでした。

現在の佐原の町並みは、こうした佐原が最も栄えていた江戸時代末期から昭和時代前期に建てられた木造町家建築、蔵造りの店舗建築、洋風建築などから構成されています。重要伝統的建造物群保存地区内の、市街地を東西に走る通称香取街道、南北に流れる小野川沿い、及び下町通りなどにその町並みを見ることが出来ます。

300年の伝統を有する 関東三大山車祭り「佐原の大祭」

ユネスコ無形文化遺産/国指定 重要無形民俗文化財に指定される佐原の大祭(夏祭り/秋祭り)は日本三大囃子「佐原囃子」の音を町中に響かせながら、小江戸と呼ばれる町並み(国選定 伝統的建造物群保存地区)の中を家々の軒先をかすめながら進むさまは、江戸時代の情景を彷彿とさせる風情をみせます。八坂神社祇園祭である7月の夏祭り、小野川をはさんで東側(本宿地区)を10台の山車が曳き廻され、一方、諏訪神社秋祭りである10月の秋祭りは、小野川の西側(本宿地区)を14台の山車が曳き廻されます。

自慢の山車は、総檜造りの本体に関東彫りの重厚な彫刻が飾り付けられ、上部には江戸・明治期の名人人形師によって制作された高さ4メートルにも及ぶ大人形などが飾られています。

What's / NIPPONIA

～「ニッポニア」とは?～

NIPPONIAは各地に点在する古民家を、その歴史性を尊重しながら宿泊施設や飲食店、店舗としてリノベーションし、複合宿泊施設として再生していく取り組みです。

ネーミングの由来となったのは「ニッポニア・ニポン」。日本を象徴する鳥と呼ばれるトキの学術名です。トキと同じように日本の歴史的な古民家や町並みも宝物であり、大切に守り育てていかなければ消えていってしまいます。日本の古民家をホテルとして再生し、新たな価値を提供したい。その土地に古くから根付く暮らしや文化を次代に伝えたい。NIPPONIAという名前にはそんな想いが込められています。

ロゴマークのデザインは日本の伝統工芸再生をテーマに、日本はもとよりイタリアなどの海外でも活躍するデザイナーナリ喜多俊之氏が担当。一「格子」の形状をシンボリックに表現しています。

III NIPPONIA

安政2年から佐原の歴史を 見守り続ける町のランドマーク



フロント
レストラン棟
GEISHO

視覚と味覚の楽しみを倍増させる、趣きある空間でいただくフレンチ



2階には和室の良さをそのままに、リノベーションされたレストランが、随所に重ねてきたさまざまな時代のしるしをみつけることができる。

フロント脇の階段を上ると眼前に飛び込んでくるのは、長い時を重ねた和の空間をそのままに活かした、レストランスペース。
この、GEISHO棟の自慢のひとつでもある、地産地消をテーマにした本格フレンチを提供するレストランは、食事をしながら、現代建築では目にするこゝとがなくなった、職人の技巧を感じる空間も、同時に愉しむことができます。



古き良き建物だからこそ感じる、現代にはない装飾が目まぐるしく。 木箱の色の変化に、重ねてきた時代を感じることができる。

江戸時代から残る建物が旅の始まりを告げる

伝建地区の中央に位置する忠敬橋のすぐそば、川のほとりに建つGEISHO棟は、もともと県指定文化財である中村屋商店で、建造は安政2年(1855年)。特徴でもある、切妻変形屋根二階建、棧瓦葺(さんかわらぶき)の姿は、最盛期であった江戸後期〜明治初期の佐原の町の雰囲気、現代に伝える堂々たる雰囲気、旅の始まりを告げてくれます。
《蕉翁》松平定朝が自ら生み出した名花、露裳羽衣、から名付けられたこの建物は、もともとと荒物や雑貨、畳を扱う商家として長く高いを営んでいました。
1階は内側に揚げ戸を建て込み、外側の土庇を格子戸と扉と壁で囲うように作られており、2階正面には繊細な格子戸を組み、軒下を張り出した「せがし」と呼ばれる、格式ある様式で建てられています。



町のランドマークはその姿を古民家ホテルに変わって、これからも町を見守る。

明治25年、新橋本から出火した火災の被害は大きく、焼失戸数380あまり、

棟数1200にものぼったこの火災により、佐原の建築物と町並みは様相を少しづつ変えることになりました。
中村屋商店はこうした火災や戦火を越え、佐原の最盛期「江戸優り」と呼ばれた、町の情緒を感じさせてくれる建物です。もとの佐原を感じさせる、堂々たる出で立ちで、今も変わらず町のランドマークとしてその姿を見せてくれます。

地産地消を愉しむ本格フレンチ

三方を海で囲まれ、肥沃で広大な農地をもつ千葉県は農業産出額全国3位、海面漁業漁獲量全国6位の食の宝庫。
その豊かな大地と豊富な水系によって育まれる佐原の自然の恵みは、全国1位の生産量を誇る落花生やねぎ、梨などを筆頭に、さまざまな農林水産物において全国に知れ渡る千葉ブランドがあります。
佐原商家町ホテル NIPPONIAは、関東の食を古来より支えてきた千葉の味を感じていただきたいと考え、生産地ならではの新鮮な素材を活かし、地元素材を使い風味あふれる「テロワール・エ・ナチュール」をテーマにフレンチをご用意。
月ごとに旬を迎える滋味豊かな地元産食材を関西フレンチの巨匠「石井」の意匠が最高の状態でご提供いたします。



左/関西フレンチの巨匠「石井」の意匠が調を揃える地元産食材を使った本格フレンチ。 右上/朝食は旬の食材を使った小鉢やお飲み合わせ、親子焼き揚げの焼き魚に米どころ千葉のごはんなど。 右下/ディナー(17,000円)は合計10品のコース料理。地元産食材をふんだんに使ったフレンチ。

施設概要 佐原商家町ホテル NIPPONIA

所在地(受付:GEISHO棟)
〒287-0003 千葉県香取市佐原イ1720
宿泊価格:
22,464円〜(税込)/人(2名1室利用時)
オーベルジュ形式(夕食+朝食付き)
※宿泊費は時期によって料金が異なります。宿泊予約の際にご確認ください。
部屋数:4室
レストラン:40席
ランチ3,024円〜、ディナー5,400円(税込)
※ディナーはサービス料10%を別途頂戴いたします
ランチ 11:30〜15:00(14:00 L.O.)
ディナー 17:30〜22:00(20:00 L.O.)

交通アクセス

電車 乗
JR東京駅
↓ JR総武本線 快速/110分
JR成田駅
↓ JR成田線
JR佐原駅
↓ 徒歩10分
佐原商家町ホテル NIPPONIA

自動車 乗
JR東京駅
↓ 東関東自動車道/90分
佐原香取IC
↓ 一般道/5分
佐原商家町ホテル NIPPONIA

<宿泊・レストランのご予約・お問い合わせ>
HP: <https://www.nipponia-sawara.jp/>
TEL:0120-210-289(NIPPONIA総合窓口 11:00-20:00)





AOI

客室棟の
ご案内
Ⅲ

AOI 201 ツイン 96㎡ 6名定員

美しく整えられた中庭を愛でる 母屋と月見台から成る一棟部屋

一棟部屋だからこそ
感じられる特別な時間

小野川の河岸に位置する一棟丸貸しの部屋であるAOI棟は昭和初期の建物。元は柳半別邸と呼ばれ、地元の方々に愛された料亭を営んでいました。ユネスコ無形文化遺産/国指定重要無形民俗文化財に指定される、「佐原の大祭」では目の前を山車が通る特等席となります。

一棟部屋だからこそ、建物の造形をそのまま愉しめるようリノベーションされた空間は、住居としての側面はもちろん、さまざまな人を楽しませてきた料亭としての側面を色濃く残しています。美しく整えられた中庭をセットに、どの空間も上質な雰囲気を目を楽しませてくれます。

職人の技巧を見取れる障子の細工や、植物をモチーフにした繊細な文様を見せるガラス戸。ただ廊下を歩くと、旅の疲れを癒す浴室に向かう時でさえも、さまざまな装飾や造形が「古民家に泊まる」、その醍醐味を感じさせてくれます。



上/リビングから美しく整えられた中庭をのぞむ。
下/夜戻ると屋根とは違った表情をみせてくれる外観に、建物が重んじた歴史を感じさせる。



異なる体験を与えてくれる 3室3様の宿泊棟

時代の異なるふたつの建築
様式を愉しむ

フロントのGEISHO棟から徒歩2分の距離にある、元製綿業を営んでいた商家であったYATA棟は、母屋、土蔵、そして裏庭に面した倉庫の3棟から成る客室棟です。

暖簾をくぐると足元には石畳の代わりに、幾何学文様を描くように埋め込まれた瓦が。緊急時には掘り返して使えるように配された瓦は、造形の美しさと共に、当時のひとの知恵を感じられるつくりになっています。

宿泊はそれぞれ敷地内に別れている母屋、土蔵、倉庫がそれぞれの宿泊室となります。

101号室は、約100年前になる明治後期に建てられた母屋の和室と2階。浴室は別棟に半露天風呂。

YATA 102 ツイン 77㎡ 4名定員



右/102号室のリビングルーム。元が蔵だとはいえないほど開放的な空間。
上/102号室のベッドルーム。階段を上り下りするたびに触れる手すりに歴史を感じる。

室内にあっても、四季折々の移り変わりを感ぜられる工夫がされています。1階の和室には当時の趣きを感じる格子の障子が。繊細な組み木細工は現代の建具にはない美しさがあります。

102号室は、昭和初期に建てられた土蔵をリノベーションした、リビングを擁するロフト型の2階構造。大切な商品を守り続けてきた土蔵は、入口の重厚な扉、太い梁や柱など、頑丈な作りもさることながら、各所に配された木工細工のあしらいが、単に倉庫として使うだけではない、家人の粋を感じれます。

103号室は倉庫を改装した1室。テラスを持つこの部屋は、普段の喧嘩から離れ、ゆったりとした時間を提供してくれます。寝室とリビングをつなぐ、広く伸びやかな空間は、落ち着いた色合いの壁や細やかな細工の入る障子の建具など、元の倉庫の面影を残しながらも、上質な空間へと姿を変えています。

3室3様の違いを見せたいYATA棟、いずれに泊まっても、佐原の古民家宿泊体験を存分に愉しむことができます。



YATA 101 ツイン 92㎡ 4名定員

上/101号室のベッドルーム。現代の建築とは異なる天井高が、歴史ある建築物であることにあらためて気づかせてくれる。
下/101号室の和室。職人の手仕事を感じられる障子の造形や、建築当初から変わらない柱など、現代にはない趣きを感じられる。

YATA 103 ツイン 54㎡ 4名定員



上/ベッドルームとリビングがワンフロアになる空間だから、その開放感がある。
右/唯一テラスを持つ部屋である103号室。身近に四季を感じることができる。

What's/ でんけんちく

～伝統的建造物群保存地区とは？～

文化庁によって、昭和50年の文化財保護法の改正により伝統的建造物群保存地区の制度が発足。城下町、宿場町、門前町など各地に残る歴史的な集落、町並みの保存が図られるようになり、平成29年11月現在、97市町村で177地区(合計面積約3,907.7ヘクタール)あり、約28,000件の伝統的建造物及び環境物件が特定され保護されています。

ここ佐原では伊能忠敬旧宅(寛政5年(1793年)建築、国指定史跡)のほか県指定文化財も8件(13棟)が小野川沿いや香取街道沿いに軒をたなわけています。フロントは、県指定文化財棟もその一つで、県指定文化財となっています。

平成28年には、百万年の江戸を支えた近郊の代表的な町並み群として、佐倉・成田・原・鏡子の4都市が「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」として日本遺産に認定されました。

蔵造りの町屋や土蔵、洋風建築などの伝統的建築物が立ち並び、小野川などの環境と一体になり、近世以降の佐原河岸として繁栄した歴史的景観を今に伝えます。

